

(6) 移動環境・公共交通

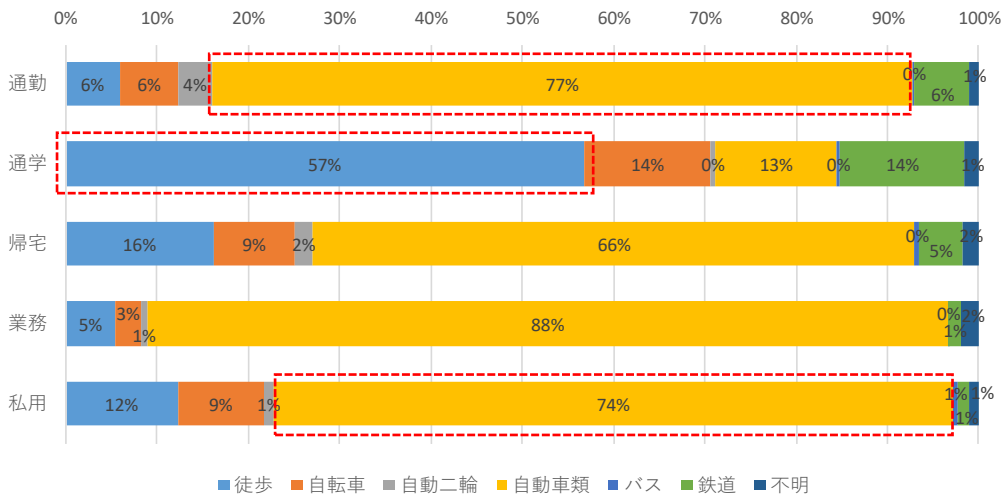
【移動環境・公共交通の分析評価まとめ】

- ◆主な交通手段は自動車による依存度が高く、徒歩・自転車の割合が低い
- ◆買い物、通院の交通手段は、中心地域では徒歩・自転車の割合が20%程度みられる他は自動車の割合が高い
- ◆中心拠点と地域拠点を結ぶ公共交通は鉄道及び路線バスが運行
- ◆公共交通の利用者は減少傾向
- ◆公共交通便利地域の人口カバー率は約50%

ア 移動目的・移動手段

「通勤」や「私用」の移動は7割以上が自動車を利用しています。
 学生の移動は徒歩が半数を超えています。

図 目的別代表交通手段（島田市）



出典：第4回静岡中部都市圏パーソントリップ調査（2012年）

イ 運転免許取得状況及び免許有無別外出状況

高齢者ほど運転免許を保有していない方は外出率が低下しています。

「私用」※の外出回数については、運転免許を保有している人と保有していない人を比較すると保有していない人は低下しています。

※私用：買い物、社交、会合、娯楽、食事、通院、レジャーなど

図 年齢別免許有無別外出率
 （1日当たり外出した人の割合）

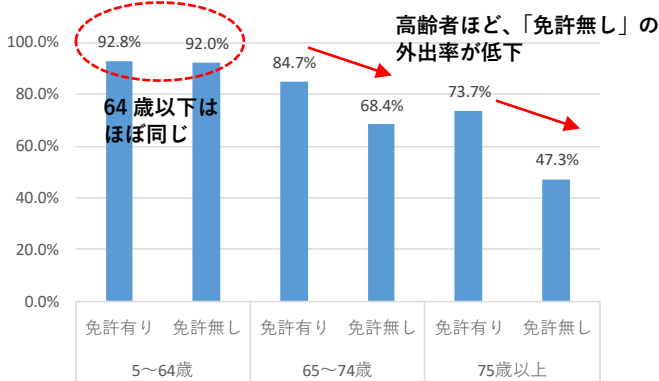
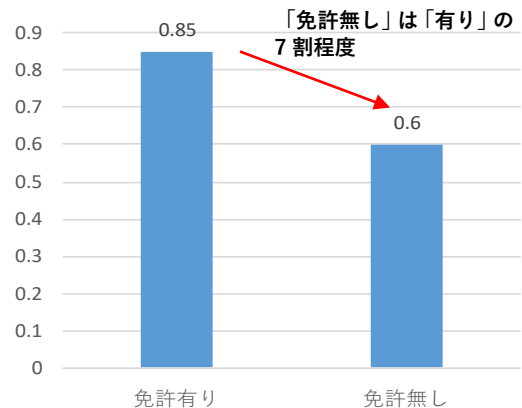


図 私用外出回数（トリップ/人/日）



※ 静岡中部圏（静岡市、藤枝市、焼津市、島田市）全体における調査結果

出典：第4回静岡中部都市圏パーソントリップ調査（2012年）

ウ 買い物・通院の交通手段

(ア) 買い物

問《日用品の買い物の場所と交通手段について》

- 日用品の買い物は、「近所のスーパーや大型店舗」(63.6%)、「自宅から離れたスーパーや大型店舗」(30.3%)が大半を占めています。移動手段は、「自家用車(自分で運転)」(77.8%)「自家用車(他の人が運転)」(7.0%)と、車による依存が高くなっています。

図 購入店舗 (日用品)

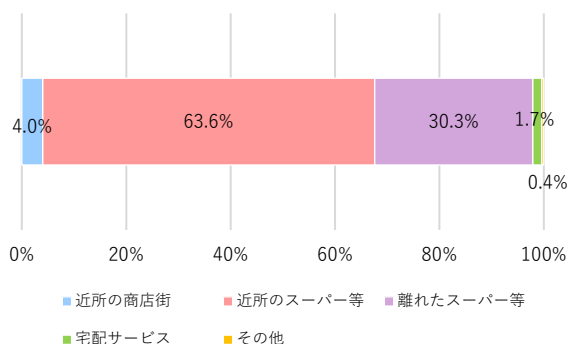
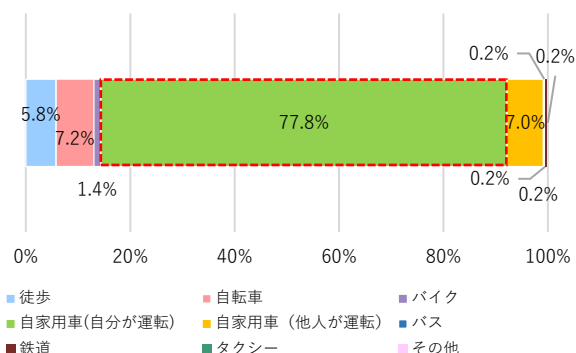


図 交通手段 (日用品)



問《日用品以外の買い物の場所と交通手段について》

- 日用品以外の買い物は、「自宅から離れたスーパーや大型店舗」(70.4%)が「近所のスーパーや大型店舗」(23.5%)より多くなっています。移動手段は、「自家用車(自分で運転)」(78.1%)「自家用車(他の人が運転)」(14.5%)と、車による依存が「日用品の買い物」より、さらに高くなっています。
- また、その他の回答では、「ネット通販」や「宅配便」を利用する回答もありました。

図 購入店舗 (日用品以外)

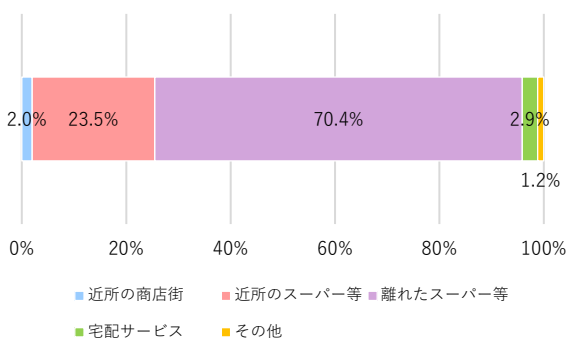
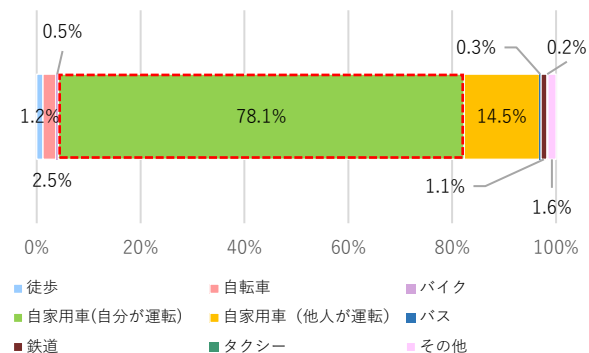


図 交通手段 (日用品以外)



出典：島田市都市計画マスタープラン市民等意識調査

(イ) 通院

問《通院している場所と交通手段について》

- ・総合医療センターへの通院頻度は、「年数回」(33.5%)が最も多く、開業医への通院頻度は「月1回」(26.4%)が最も多くなっています。
- ・通院のための交通手段は、「自家用車(自分で運転)」(77.2%)が最も多くなっています。

図 通院頻度（総合医療センター）

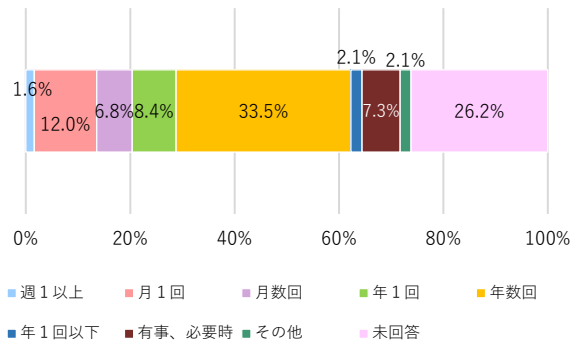


図 通院頻度（開業医）

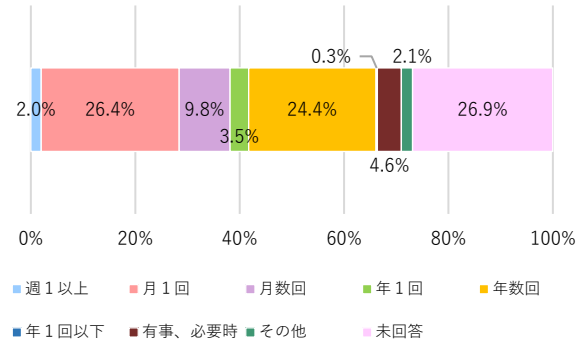
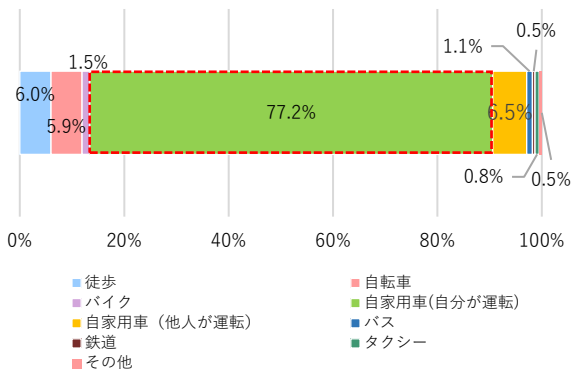


図 交通手段（通院）



出典：島田市都市計画マスタープラン市民等意識調査

(ウ) 地域別の買い物、通院の交通手段

買い物、通院の交通手段は、中心地域で徒歩・自転車が 20%程度みられる他は、圧倒的に自動車の割合が高くなっています。

図 地域別の買い物の交通手段

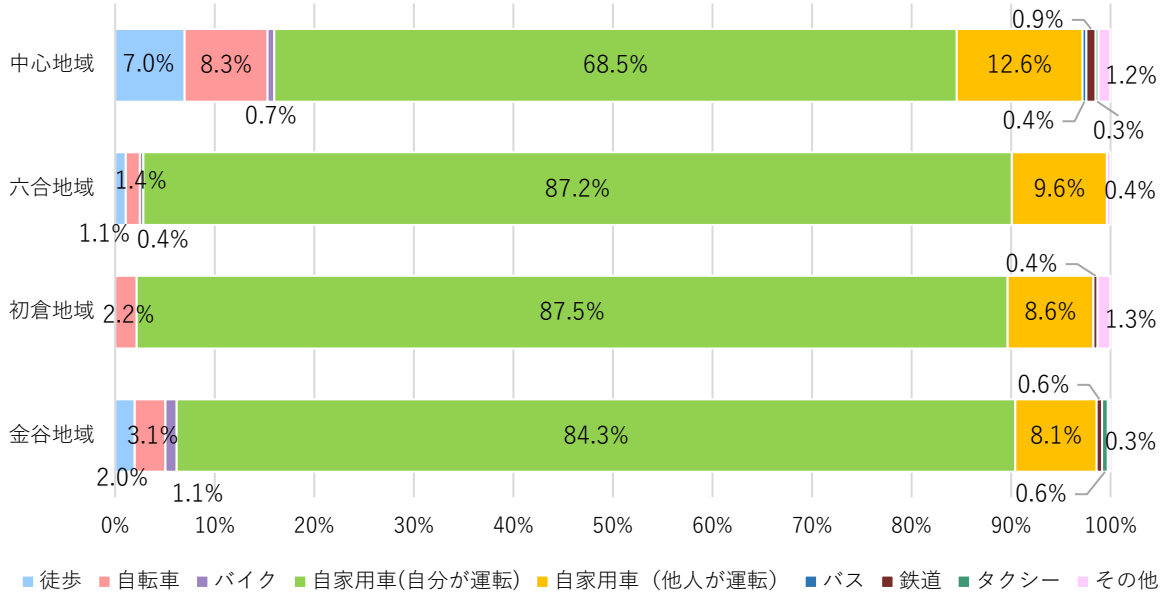
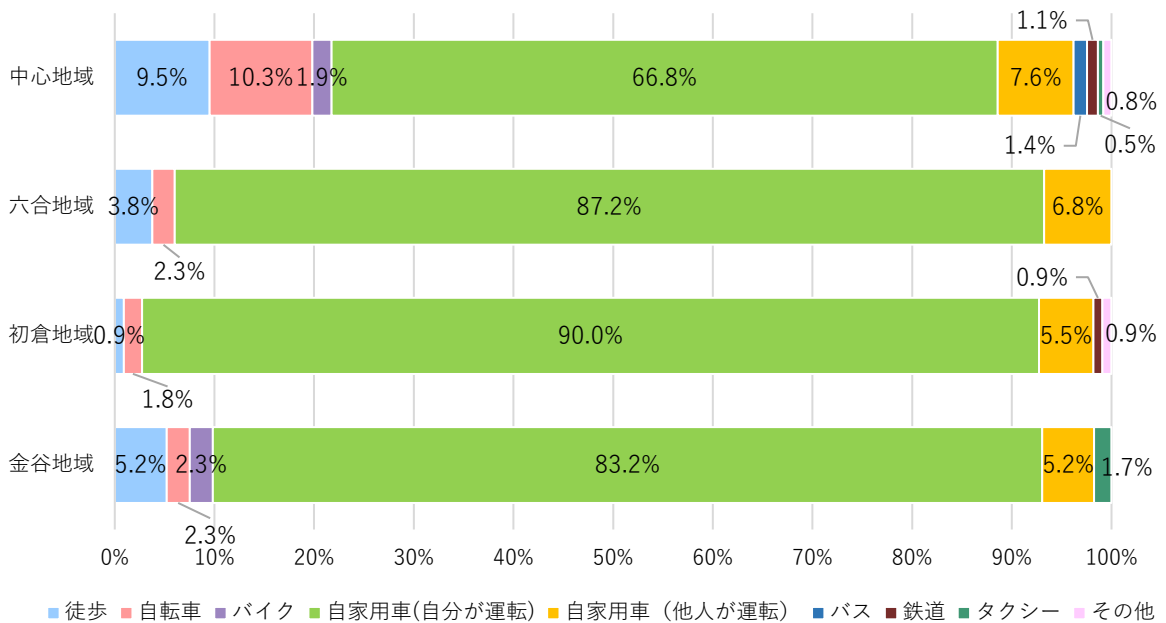


図 地域別の通院の交通手段



出典：島田市都市計画マスタープラン市民等意識調査

エ 通勤・通学流動

(ア) 通勤

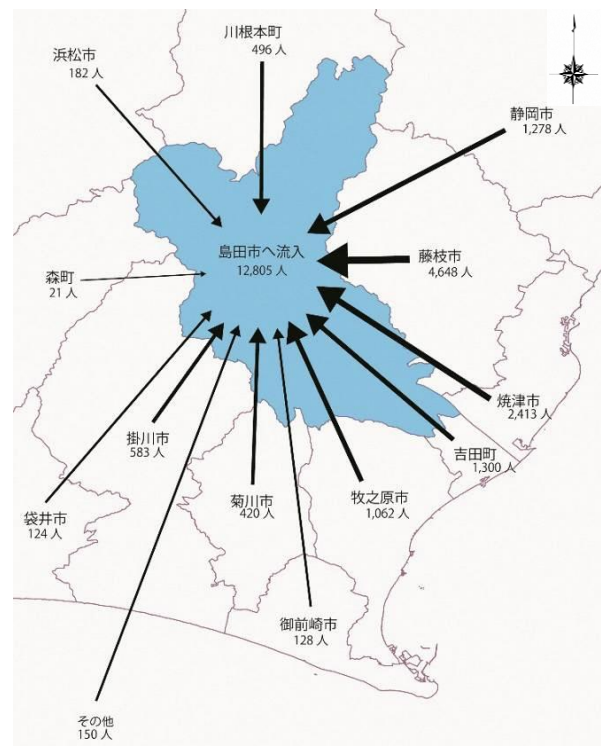
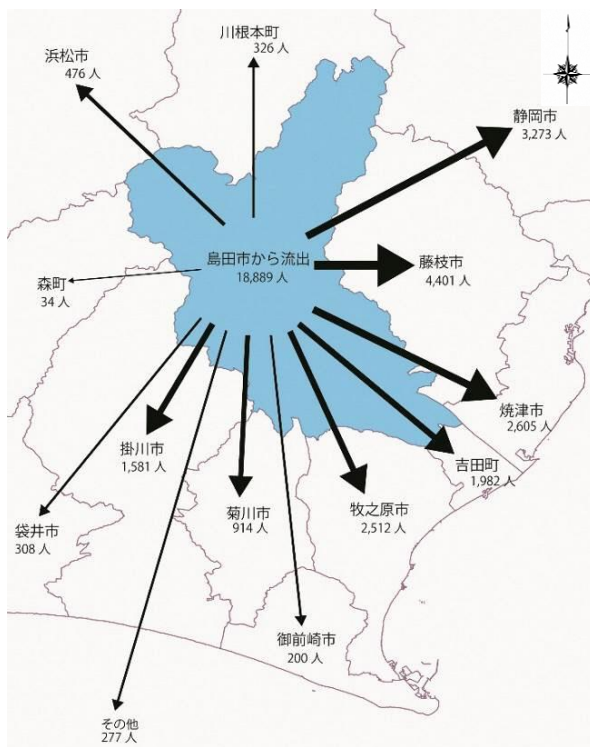
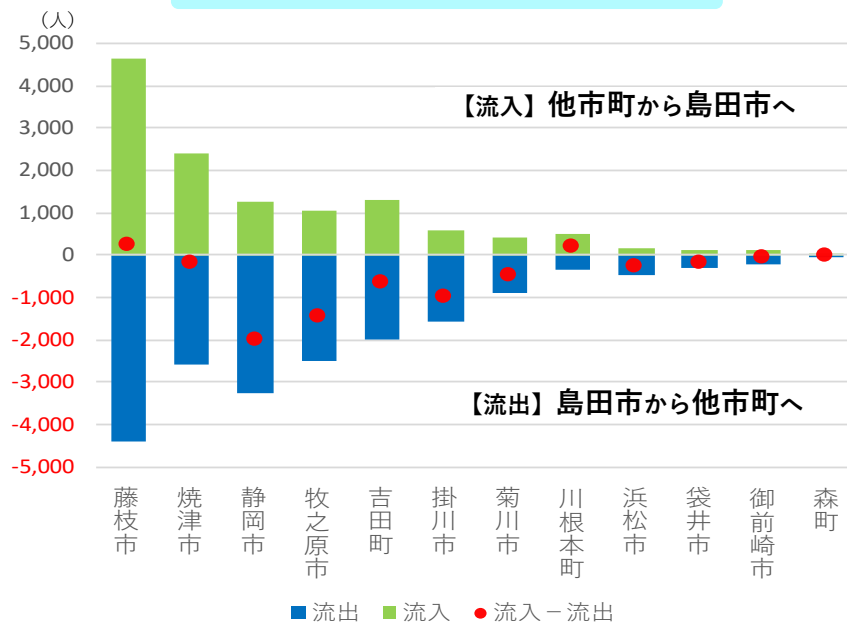
本市に居住する就業者 50,252 人のうち、市内で従業する人は 31,363 人と約 62%で、約 38%が市外に流出しています。

一方、本市に就業する就業者約 44,168 人のうち、他市町に居住している人は 12,805 人と約 29%となっています。

通勤流動量の多い市町は、藤枝市、焼津市、静岡市、牧之原市、掛川市、菊川市の順で、概ね隣接都市との結びつきが強いことを示しています。

周辺都市への流出人口は 18,889 人で、周辺都市からの流入人口が 12,805 人と流出超過になっており、市町別では静岡市、牧之原市、掛川市への流出超過が多くみられます。

図 通勤流動



※島田市に居住している人が島市内内に通勤している人数 31,363 人

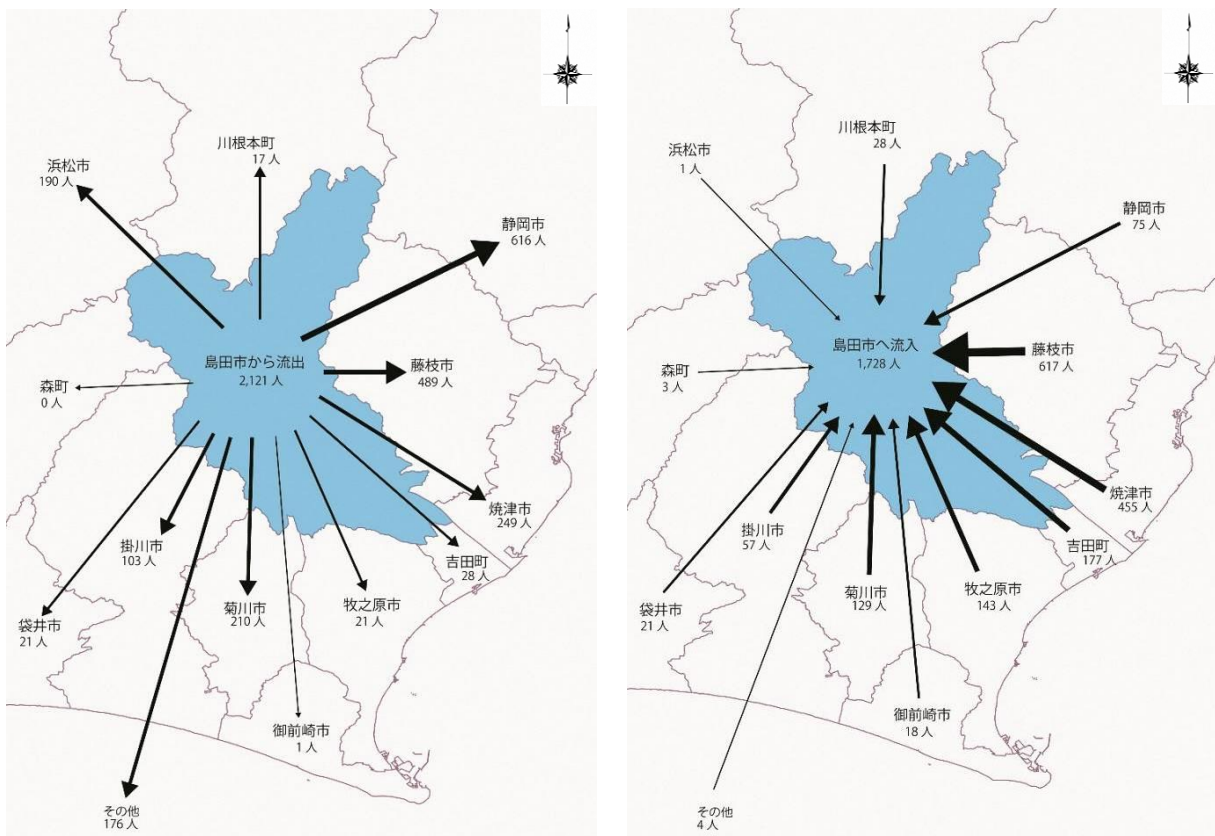
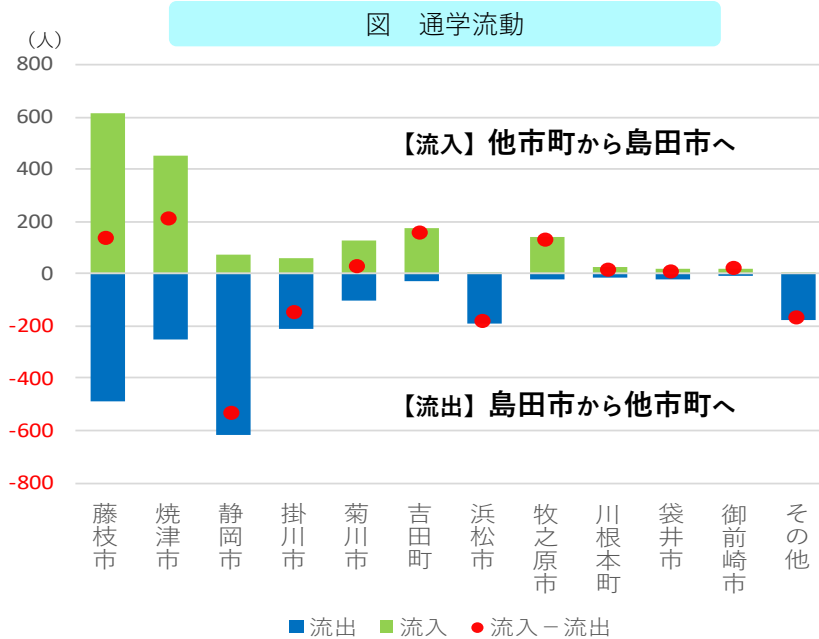
出典：2015 年（平成 27 年）国勢調査

(イ) 通学

本市に居住する 15 歳以上の学生 4,062 人のうち、市内に通学する学生の割合は 1,941 人と約 48%で、半数以上が市外へ通学しています。

一方、本市に通学する 15 歳以上の学生 3,669 人のうち、他市町に居住している学生は 1,728 人と約 47%となっています。

本市と他市町間において通学流動量の多い市町は、藤枝市、焼津市、静岡市の順となっています。また、周辺都市への通学流出人口は 2,121 人、周辺都市からの流入人口は 1,728 人で流出超過となっており、特に静岡市への流出超過が顕著になっています。



※島田市に居住している人が島田市内に通学している人数は 1,941 人

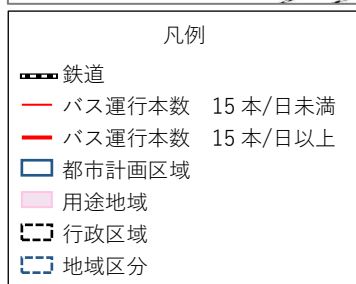
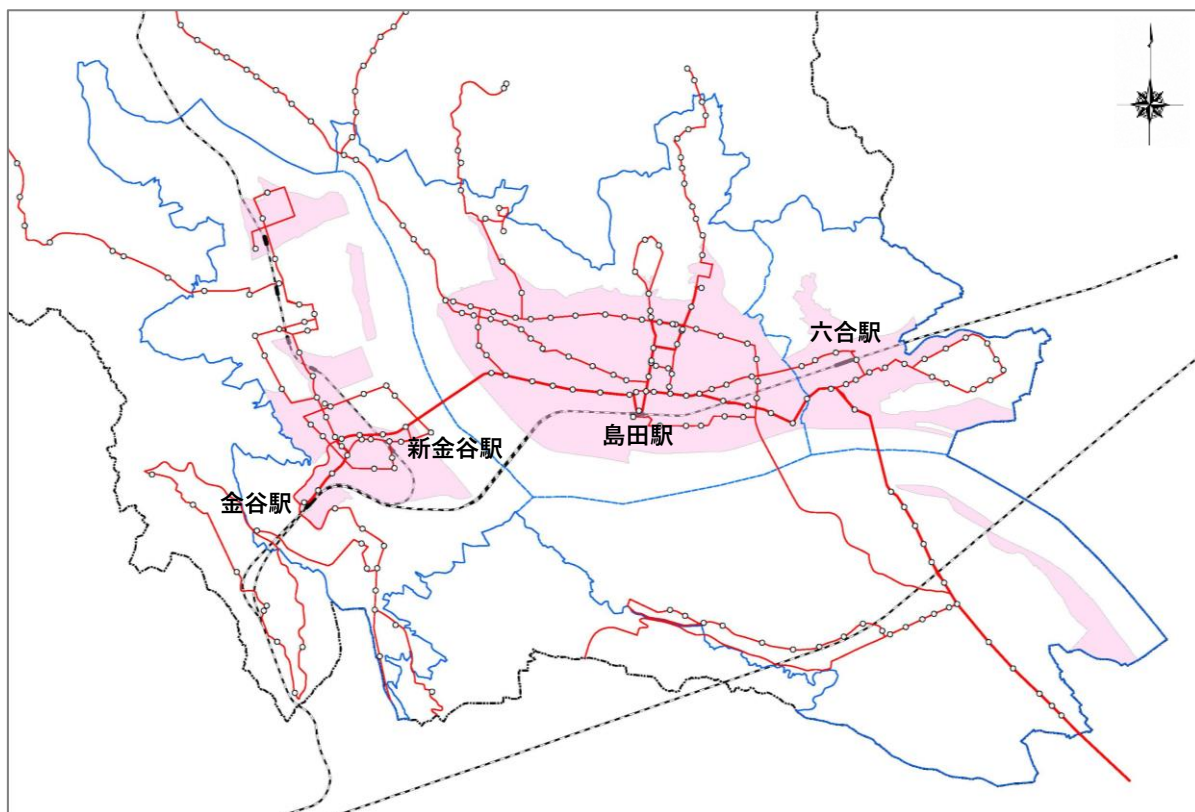
出典：2015 年（平成 27 年）国勢調査

オ 公共交通

(ア) 運行状況

本市の公共交通機関は、市域を東西に通過する東海道本線、大井川に沿って川根本町まで延びる大井川鐵道大井川本線の2路線によって骨格が形成されており、これを補完するバス路線が市内各地区を連絡しています。

図 公共交通運行状況図



出典：国土数値情報を基に補正

(イ) 公共交通利用状況

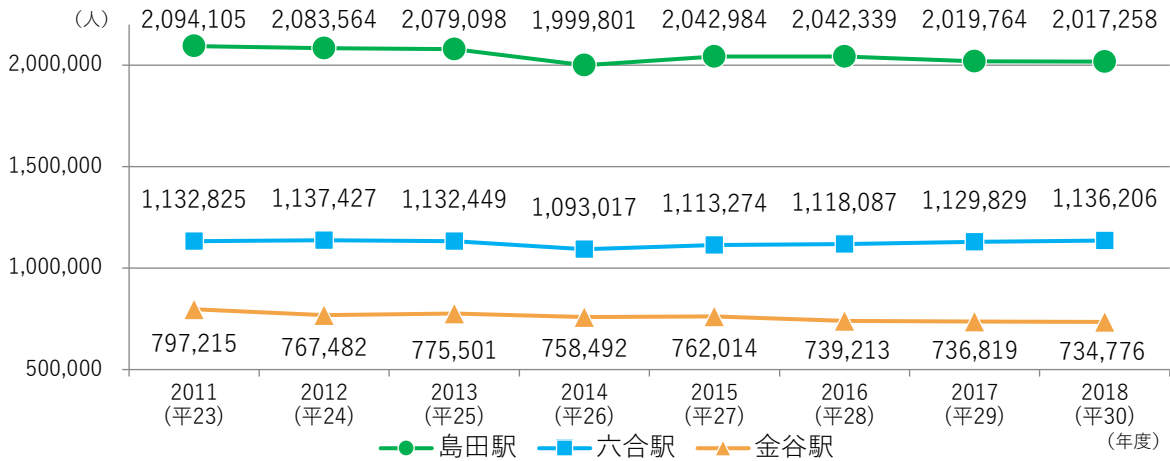
東海道本線 3 駅（島田駅・六合駅・金谷駅）の利用者数については、ここ数年概ね横ばいあるいは微減傾向となっています。

大井川鐵道大井川本線については、拠点駅である新金谷駅の利用者数は増加傾向にあります。金谷駅は減少傾向であるものの、ここ数年は増加傾向にあります。

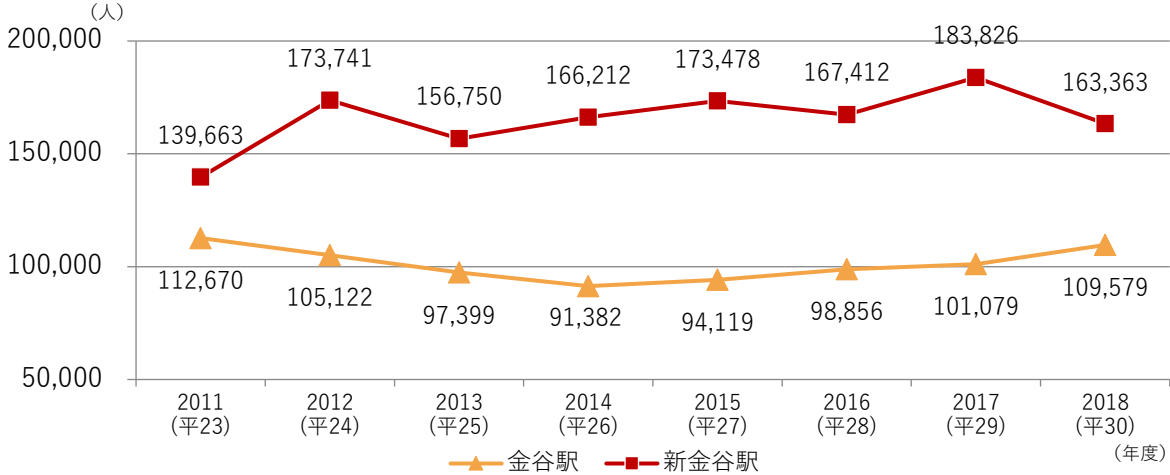
バス利用者数は、2016 年度（平成 28 年度）に一時増加しましたが、減少傾向にあります。

図 公共交通利用者数の推移

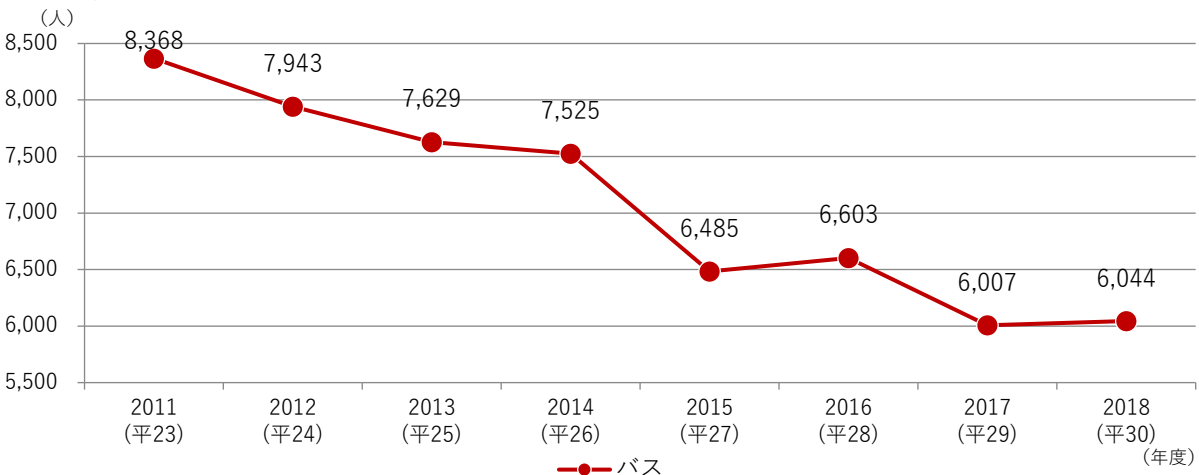
■東海道本線



■大井川鐵道大井川本線



■バス路線



出典：2019 年（令和元年）度版島田市統計書

(ウ) 公共交通人口カバー率

都市計画区域内の公共交通人口カバー率は、「公共交通便利地域」が約 50.9%、「公共交通不便地域」が約 29.5%、「公共交通空白地域」が約 19.6%となっています。地域別の公共交通空白地域の人口割合を見ると、初倉地域が最も高くなっています。

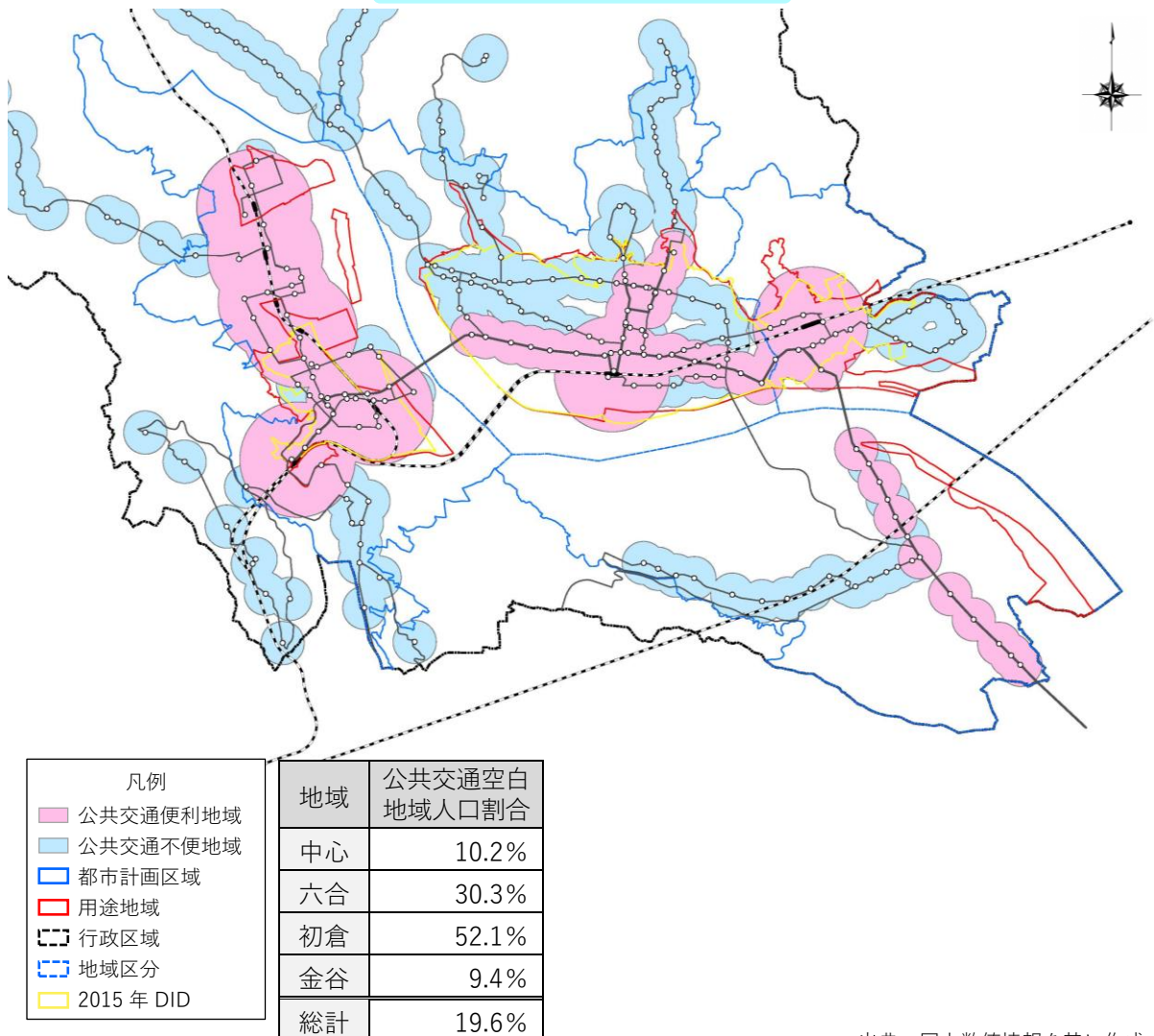
なお公共交通の利便性は、鉄道駅からの 800m 圏内外、バス停からの 300m 圏内外により、下表のように分類しています。

表 公共交通の利便性に基づく分類と人口カバー率

		バス		
		バス停から 300m 圏内		バス停から 300m 圏外
		運行本数 15 本/日 (片道) 以上	運行本数 15 本/日 (片道) 未満	
鉄道	駅から 800m 圏内	公共交通便利地域 (H27:44,542 人、都市計画区域内人口の約 50.9%)		
	駅から 800m 圏外	公共交通不便地域 (H27: 25,874 人、都市計画区域内人口の約 29.5%)	公共交通空白地域 (H27: 17,166 人、都市計画区域内人口の約 19.6%)	

資料：「立地適正化計画の手引き」(平成 28 年 4 月 11 日版、国土交通省)を基に設定

図 公共交通カバー状況図



出典：国土数値情報を基に作成

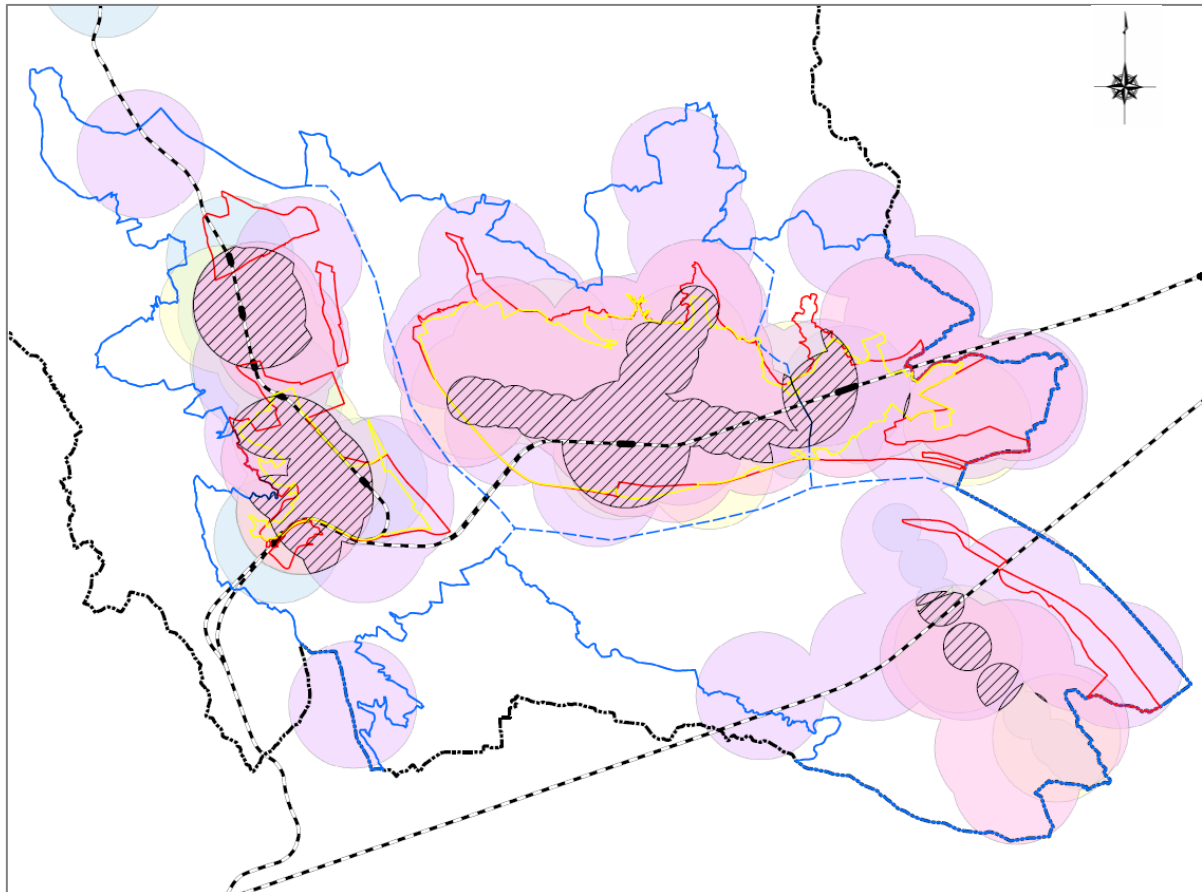
(エ) 日常生活サービスの徒歩圏充足率

鉄道やバスといった基幹的公共交通及び医療・高齢者福祉・商業といった施設の全てを徒歩圏で享受できる圏域を図示したものと、その圏域内の人口比率を4地域で算出したものを以下に示します。

中心地域は島田駅・市役所・市立総合医療センター周辺、六合地域は六合駅及び六合公民館周辺など、初倉地域は初倉公民館周辺など、金谷地域は金谷公民館周辺などが該当します。

充足率は金谷地域が最も高く、次いで中心地域、六合地域、初倉地域の順となっています。

図 日常生活サービスを徒歩圏で享受できる圏域



凡例	
	日常生活徒歩圏
	医療施設
	高齢者福祉施設
	商業施設
	基幹的公共交通
	都市計画区域
	用途地域
	行政区域
	地域区分
	2015年 DID

地域	徒歩圏充足率
中心	46.5%
六合	15.7%
初倉	10.1%
金谷	56.9%
総計	37.9%

※「都市構造の評価に関するハンドブック」(国土交通省)に基づき、基幹的公共交通及び医療・高齢者福祉・商業施設の全てを徒歩圏で享受できる圏域内の人口比率を算出